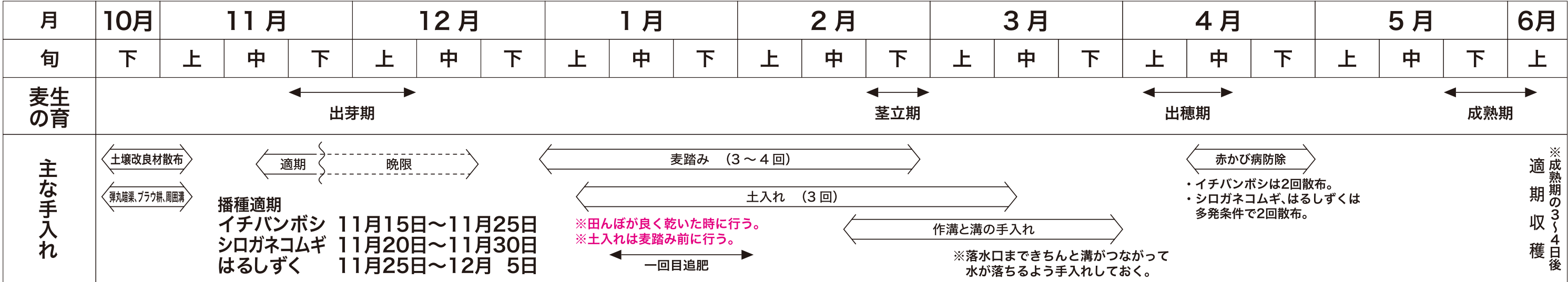


麦 類 (収 量 目 標)
450kg

※排水性を向上させて生育収量を向上しましょう。(弾丸暗渠、心土破碎、ブラウ耕、周囲溝等)
※稲ワラの全量すき込み、地力を向上させましょう。(耕深は10cm～12cmを確保)適正な石灰施用で酸性矯正しましょう。
※赤かび病防除は必ず行いましょう!!
※小麦はタンパク質含有率10%の目標達成のため基準に沿った適正な追肥を行いましょう。
※異種混入が発生すると販売が困難になるので毎年必ず種子更新を100%行いましょう!!

麦類の生育と主な作業



1.品種の特性

※福岡県における主要農作物の品種特性より(シロガネコムギは筑後分場のデータ)

項目 品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	m穂当り数	耐倒伏性	耐 病 性			穂発芽性	千粒重	10収a当り量
							赤かび	縞萎縮	うどんこ			
イチバンボシ(はだか麦)	月 日 4. 6	月 日 5. 21	83 ^{cm}	5.5 ^{cm}	381 ^本	やや強	中	強	中	難	32.8 ^g	436 ^{kg}
シロガネコムギ(小麦)	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	中	強	やや強	易	33.4	532
はるしずく(二条大麦)	4.8	5.21	87	6.9	583	強	やや強	強	極 強	難	49.0	543

2.種子の準備と播種

(1) 種子消毒

対象病害虫	薬 剤 名	処理方法および処理時期
斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子1kgあたり5gを種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ (小麦)	(劇)アドマイヤー水和剤	乾燥種子1kgあたり1.5gを種子粉衣する。
	クルーザーFS30	乾燥種子1kgあたり6mlを種子塗抹する。

※ヤギシロトビムシが多発している圃場(小麦)は、アドマイヤー水和剤又はクルーザーFS30を使用する。

(2) 播種時期と播種量 (ドリル播き)

品種	播種時	適期播	遅播
イチバンボシ		11月15日～25日	11月26日～12月10日
播種量(kg/10a)		6	7
シロガネコムギ		11月20日～30日	12月1日～10日
播種量(kg/10a)		7	9
はるしずく		11月25日～12月5日	12月6日～20日
播種量(kg/10a)		5	6

- イチバンボシは硝子率を抑えるために、大豆あと作は避ける。
- 大豆あと作の場合は、それぞれ播種量を1kg少なくする。
- 深播き(5～6cm)にすると出芽が遅れ、分げつの発生も少なくなるので覆土は2～3cmとする。
- 除草剤の効果を高め、薬害を回避するには、碎土を充分に行い、覆土は2～3cmとする。土壌が乾燥している場合は、鎮圧を行う。
- バラ播きは2割増とする。
- 粘土質の圃場では多め(1割程度)に播種する。

3.施肥

(10a当り)

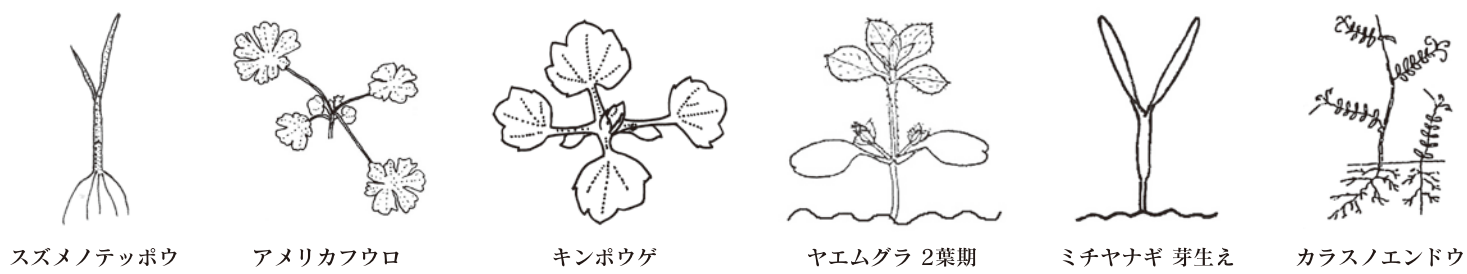
品 種 名	土壌改良材 (酸性矯正又はケイ酸補給)	基 肥	追肥
		ちくこのめぐみ444	1月中旬～下旬 麦追肥一発2号
イチバンボシ	生石灰 100～160kg 消石灰 100～160kg ミネラルG 200kg	水稻あと30kg 大豆あと20kg	20kg
シロガネコムギ		水稻あと40kg 大豆あと20kg	40kg
はるしずく		水稻あと40kg 大豆あと20kg	20kg

- 土づくりのため稲ワラを全量すきこみましょう。
- はだか麦、大麦(イチバンボシ、はるしずく)は特に酸性に弱いので、生石灰又は消石灰を散布し土壌改良を行う。
- 大豆あとの場合、基肥を基準の半量にする。
- 追肥一発体系は冬期の降雨による肥料分の流亡を軽減することに有効。

4.雑草防除

時期	適用雑草	除 草 剤 名	処理時期	使用量	使用上の注意
耕起 播種前	一年生・多年生 雑草	ラウンドアップマックスロード	播種前～出芽前まで	500ml (水量 50～100ℓ)	周辺への飛散防止を徹底する。
播 種 後	スズメノテッポウ等の イネ科雑草と ミチヤナギ、ノミノフスマ 等の広葉雑草	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (水量 100ℓ)	フロアブル剤は薬量に注意をして使用してください。 本剤の使用により、葉身に白化や黄化が見られる場合がありますが、その後回復します。大雨が予想される場合は使用を避けてください。 はだか麦・大麦には薬害のおそれがあるので麦の出芽前に使用する。
		リベレーターG(粒剤)	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	
生育 初期	イネ科雑草及び広葉雑草 (ミチヤナギ キンボウゲ アメリカフウロ ノミノフスマ)	ハーモニー細粒剤 F	播種後から麦3葉期 (雑草発生前から 発生始期)	4～5kg	土壌が乾燥しているときは効果が劣る。 スズメノテッポウ2葉期まで。
		ハーモニーDF	播種後～節間伸長前 (但しスズメノテッポウ5葉期まで)	5～10g (水量 100ℓ)	隣接の野菜・豆類等に飛散しないよう注意する。使用器具は散布後消石灰で洗浄する。カズノコグサ3葉期まで。 小麦は穂ばらみ期まで使用可能。
	キンボウゲ アメリカフウロ ヤエムグラ	バサグラン液剤	はだか麦・大麦 収穫90日前まで 小麦 収穫45日前まで	100～200ml (水量 70～100ℓ)	雑草3～6葉期に散布 (2月上旬頃)
	ヤエムグラ ノミノフスマ	エコパートフロアブル	節間伸長開始期まで (但し、収穫45日前まで)	50～100ml (水量 100ℓ)	カラスノエンドウへの効果は低い。 麦の葉身部に軽微な白斑、白点などを生じるが、一過性でその後の生育には影響しない。
生育 中期	カラスノエンドウ キンボウゲ アメリカフウロ	MCPソーダ塩	幼穂形成期 (但し、収穫45日前まで)	200～300g (水量 70～100ℓ)	カラスノエンドウに効果高い。気温が高いほど効果が安定する。分げつ抑制効果があるため、茎数を十分確保してから散布。(日安:3月上旬)

- 細粒剤は飛散しやすいので無風状態で散布し隣接ほ場等へ影響がないように注意する。
- ハーモニー細粒剤FとハーモニーDFはどちらか片方しか使えません。
- ハーモニー剤は抵抗性のあるスズメノテッポウには効果がありません。



5.病害虫防除

	麦種	散布時期	農薬名・倍数、量 希釈水量100ℓ	使用時期	使用回数
赤かび病	・イチバンボシ (はだか麦) ・はるしずく (大麦)	・開花期 出穂後7～10日 ・薬穀抽出期 出穂後12～14日	トップジンM水和剤・1500倍	収穫前30日	1回
			トップジンMゾル・1500倍	収穫前14日	
			トップジンM粉剤DL・4kg		
	・シロガネコムギ (小麦)	・開花期 出穂後7～10日	トップジンM水和剤・1500倍	収穫前14日	2回以内
			トップジンMゾル・1500倍		
			トップジンM粉剤DL・4kg		

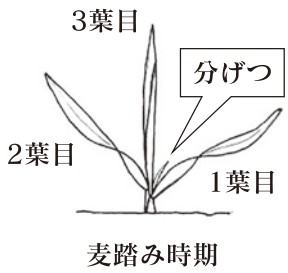
- 網斑病(大麦)が多くみられる圃場は出穂期前にシルバキュアフロアブル(収穫14日前まで、使用回数2回以内)2000倍液を10a当り60～150ℓ散布する。
- 大麦、はだか麦に対するトップジン剤の使用時期、使用回数に注意してください。
- イチバンボシ(はだか麦)は赤かび病にやや弱いので、2回目の防除として1回目の7～10日後にシルバキュアフロアブル(収穫14日前)の2000倍液を10a当り100～150ℓ散布する。

6.排水対策

- 麦は湿害を受けやすいため、排水対策を徹底する。
- 播種前に周囲溝を施行し、表面排水を促す。
- 3月になると降雨が多くなるので、2月いっぱいには溝さらえや排水対策を行う。
- 弾丸暗きょは2～4mおきに深さ30～40cmで引く。

7.土入れ

- 時期 1月上～中旬(本葉3、4枚)、2月上旬頃、3月上旬頃。
- 1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増す。
- 土入れは踏圧前に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。
- 土入れは倒伏防止・雑草防除・排水促進に効果があるので必ず実施する。



8.麦踏み(3～4回)

- 時期 1月上旬～2月下旬まで(本葉3、4枚～莖立期(節間伸長開始期:草丈20～25cm程度)まで)
- 乾燥が続いて、土壌が乾燥している時の午後、茎葉水分含量の少ない時。
- 麦踏みは、土入れ後に行う。

9.収穫・乾燥

- 成熟した順に収穫しましょう。コンバイン収穫の適期は子実水分20～25%です。
- 早刈りは損傷粒やむれ粒の原因、刈り遅れは過熟によるロスが多く、品質低下につながる。
- 自家乾燥する場合は収穫後すみやかに乾燥を始めます(適正乾燥)。仕上げ水分は、イチバンボシ12.0%以下、はるしずくで12.0%以下、シロガネコムギで11.5%以下を目標とする。

◆農薬購入の際は必ず印鑑を御持参下さい。

- 天候・気象状況に応じた栽培管理を心がけましょう。
- 農薬のラベルを確認して散布しましょう。
- 農薬の近接作物、宅地への飛散を防止しましょう。